

豊かな心

2020年、2021年と新型コロナ禍で、社会も教育現場も家庭も誰もが不安な環境の中、入園を心待ちにしていた子、進級を楽しみにしていた在園生、感性豊かな子ども達にどのように私達保育者が手を差しのべてよいのか、職員一同チームになり、各自の健康環境を考えながら、保育について考えた。お母様とは、逐次にコミュニケーションを上手に密にしつつ、子ども達には、手作業（絵画・制作）を解説つきで用意したり、うたやリズム、英語等、CDをおこしたりして各園児に届くよう工夫した。でも子ども達は、グラウンドで遊んだり、友達との関わる社会性、コミュニケーションが豊かな心に反映することを実感した。保護者の同意書も準備し、2日毎に分けての保育を用意した。

園としては、安全を用意し、園全体を消毒したり、衛生面を心して、子ども達に安全の場と思ってもなかなか落ち着かず、誰もが責任と豊かな心で教育があることを強く体験した。子ども達が日頃から興味を持っている英語の力が活かされ、コロナ一つの問題を通して、日本だけでなく、英語圏、アジア圏以外の国に興味を持つ様子に、感受性豊かな子どもに心打たれた。その時、英語のネイティブの先生が来園し、協力し、アクティブに子どもと共に安全性を考え、プレイや子ども達の安全な保育に積極的に参加して下さり、グラウンドでの小グループでアクティブな保育を展開して下さり、更に世界観を持つようになった。

敏感期（モンテッソーリ説）の幼児期の言語、社会性をと考え、平成10年頃より英語を導入した。

幼児はその相手の応答（人的環境）によって興味が膨らんだり、身体で表現したり、共感が広がったり、出会ったものによって、豊かな心の動きを声に出したり、言葉に変えたり、言語力として人との関わりが発展していった。如何なる状況においても実践の中・環境の中から拾い、経験と洞察で立証したいと考えた。

保護者や地域実態	幼児の実態	保育の目的・課題・願い
<ul style="list-style-type: none"> ・教育熱心 ・知識偏重傾向 ・自然体験・遊びの経験が不足 ・地域ぐるみで教育への関心が高い ・協力的がややもすると自己主張になりがち ・親子代々の入園もあり 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく温厚だが個性的 ・知識は豊かだが、生活経験が不足がち ・様々な人との関わりが少ない ・ややもすると依存的で自己理想は高い ・外遊びの経験が少なく遊びの指導も要す ・体育を専門的に入れて、個・グループの指導で心身の発展につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性の育成（心の育ち） ・自ら気づき、自ら学ぶ、自ら考える力の育成 ・健康な身体及び体力づくり ・子どもへの環境を保護者との協力で園と家庭との協力 ・自立心、自己抑制力 ・規範意識の向上

時に、外部評価・内部評価から拾う。

保護者（家庭）の願い	幼児の願い	教師（幼稚園）の願い
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に物事に取り組む ・家族と対話できる・話を聞ける ・自分の思いや考えを感情ではなく言葉で伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々なことを知りたい ・お友達と色々な遊び、関わりをつくりたい ・大きくなりたい ・色々な事を経験したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく心豊かな子 ・発表力・自分の考え、思いを表現する ・基本的な生活習慣が身につく

定期的に討議を実践する。

研究課題	保育目標
<ul style="list-style-type: none"> ・英語を通して人間力を培う・世界に目を向ける ・新しい経験へ意欲的に取り組む ・英語力によって、他の国・世界観が芽生える 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心（健全な社会性） ・英語力を通して色々な国の言葉、人に関心をもつ ・地域に存在する人・言語に興味をもつ ・幼児期における感受性、道徳性の芽生えをマスメディアを通して理解する

◎研究目的

日頃から、社会の教育に対する保護者のニーズが専門化し、当園としても講師による音楽・体育・英語の授業は従来導入した。その三つの中で殊に保護者のニーズが多かったのが、体育と英語であり、英語力を強化して欲しいと要望があった。それによって英語の時間を増やすことにした。アンケートを実施した結果、家庭と集団とが協力し、保育に生活に活かすべく、話し合いの結果決定した。家庭でも英語に親しむようなメディアやインターナショナルと交流している保護者も増えてきた。

◎過程

<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期・幼児期になると、周りの環境によって（生活・遊び）活発になり身体も運動の発達も著しく発達し、行動範囲も増え、遊びの継続時間も長くなる。 ・テレビの放送を見ても集中力・反応力・表現力・応用力は個々に異なる。社会性の豊かな子は、第三者から見ても意欲的で、興味が豊かに表現していく。 ・興味を持たない子は、社会性（友達の関わり）が豊かではない子は、静かに見ている、表現力が少ない。時間をかけ勇気づけつつ見守りたい。 ・反応は早く、興味があるのかと思うと、単に自分に関心を求めてアクションが大きいのが、理解していなく、言語がアクティブの行動力に反映している。 ・私達職員一同はアドラー心理学を研鑽し、心理学の二本柱である共同体感覚・勇気づけを活かすべく、保育に携わっている。

保護者のニーズ・社会的ニーズ

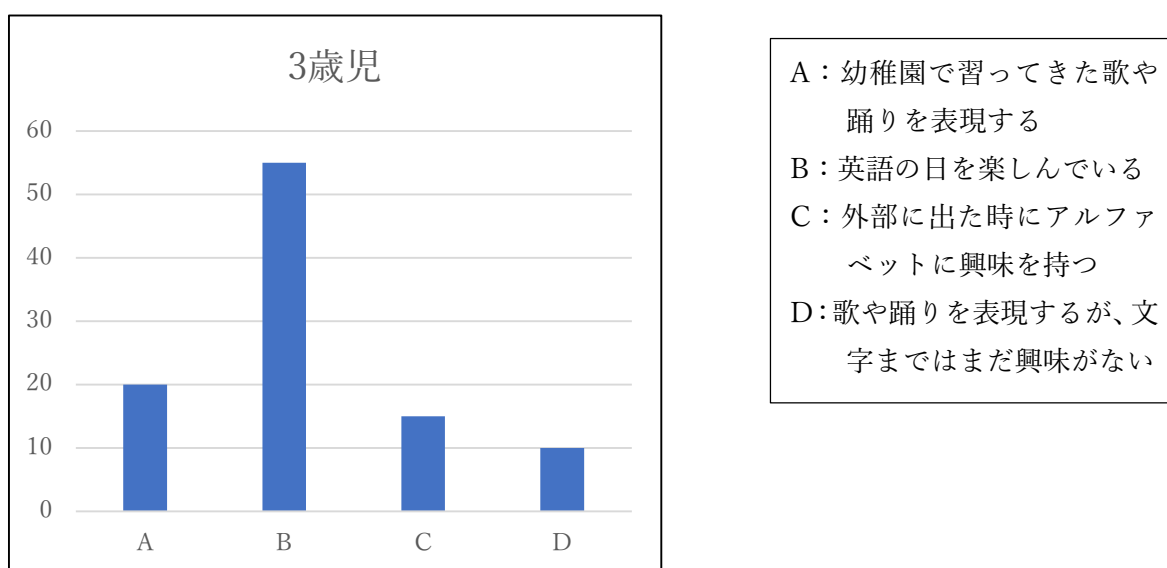
小学校に於いても英語が導入され、殊に国際化が急激に進み、英語力の向上の必要性・「実践的コミュニケーション能力の育成」がますます求められ、小学校に於いても中学校に於いても英語が好きな人になるには幼い頃から、その様な環境を工夫し、慣れ親しませることが社会・殊の外、保護者からも求められるようになり、総合的英語力を幼い時から必要と感じ、幼稚園では英語に親しませたい、その思いから二十年程前より外人講師による英語を毎週一回行っていた。昨年より週二日（水・金曜日）に英語を導入し、英語に対する興味・親しみを一層深く感じられる思いがする。

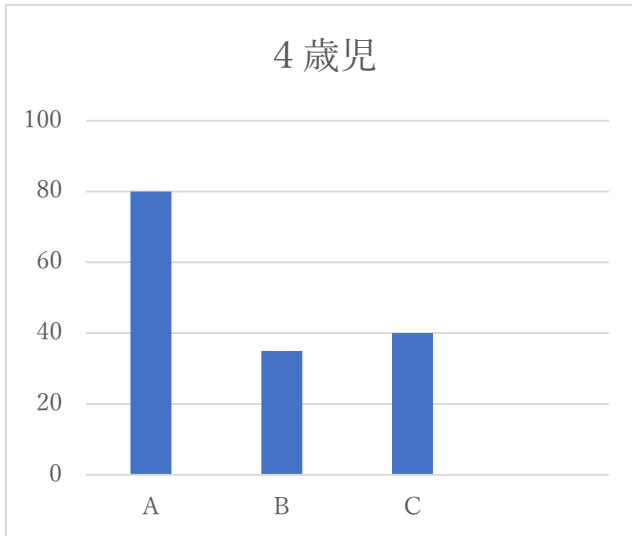
◎まとめとして

幼稚園では、殊に家庭とは異なり、集団生活・同年齢との関わり・異年齢との遊び、その中での横の社会性はとても重要な問題として注目し、保育者も自らの豊かな社会性を身に付けて保育をしていかなければならない。現状、核家族・少子化・多種多様な生活様式と、その一人一人を受け入れつつ、集団づくり・クラス作りをしていかなければならない。メディアに対してもマイナス面・プラス面の両面から保育者は考え、保育に活かすことが必要と思う。

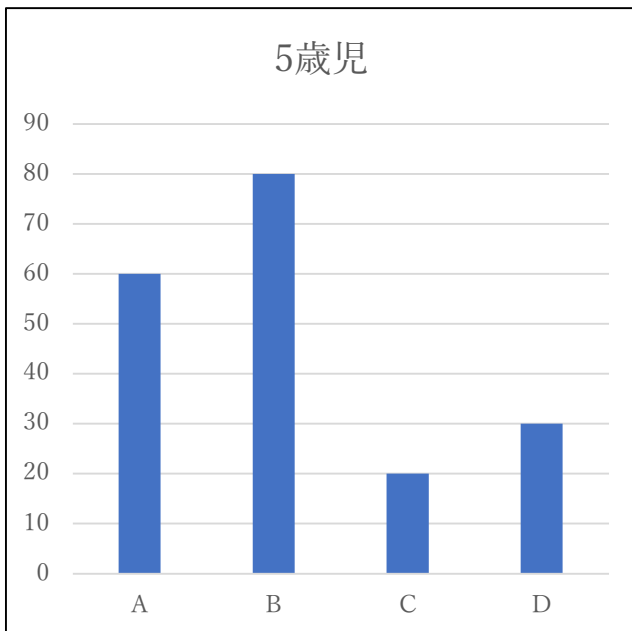
家庭で見ている子どもの経験と集団（友達）と見て感動の共有や異なる見方の認識、遊びへの発展等は家庭で見るとは異なる意味があると思う。

これからのグローバル化社会に対して外人講師のみに頼らなくても放送番組及びメディアを上手に生かして楽しい意義ある国際社会に向けて、英語力を子ども達の生活に遊びに応用することが出来ると確信できた。





- A : 日常生活の中に英語を取り入れてコミュニケーションを豊かにしている
(家族とも他者とも進んで挨拶をする)
- B : 英語による映画や絵本に興味を持つ
- C : 自分の名前をアルファベットで書こうとする



- A : 簡単な文型を理解する
- B : 進んでコミュニケーションを持って話しかけていく
- C : 色々な国の人に親しむ
- D : 歌や踊りを興味・関心が強く、積極的に発表する

<どの方向性を希望するか>

